

165
5
172

西洋新書 三編 下



津門
號 165
卷 5

東京
費勒特費府

西洋新書三編卷之下

東京

瓜生政和編集

○費勒特費府の説

費勒特費府ハ季候華盛頓府ヨリ北西の方ヘ離ルテ四十八九
同格ホテバルチモール府ヨリ北西の方ヘ離ルテ四十八九
里ノ北ホアリ家数七万軒人口四十五万余府内市中
往来ハ井字ホリ東西ヘ二里余南北ヘ一里半余あり街の
西の方ト流ル河トテラワレト云ヒ東の方ト流ル河トコシ
コイケルト云フハ二筋の河府外ホテ合シテ一大江トありク流ル

海の入り口より府下まで十里余ありといふとも大船自在不漸
 り来つて為貯出入の貨物の運送不便ず初めて合衆十三局
 の公會所と建一の地あり市街の中小商人稀なり富家或ひは
 問屋の類多く金銀硝子細工ハ亜米理加局中の最上の場所と
 すけ処ハ合衆国才一と称する旅亭あり千八百五十五年今
 より二十七年お小出来一普請おて度々の総数八百二十間
 湯殿雪隠小至るまで花毛種ときき器ハ多く銀おて造ると
 用也財ハ華盛頓小云ると同一市中の人の飲水多し水とらひ
 地中へ水道と通ド樋と以て家々へ引と華盛頓府と同一水
 道の源ハコテラワレ河なりコテラワレ河の水と水車の仕掛おて

山の上へ押揚げ而して府内の市中へ引通するあり又「ガストラ
 ングの樋も地中と廻りて通する」華盛頓府ハ鮮ると同ド
 前小も説るが如く「ガストラングハ石炭の気あり石炭の油と水中へ
 通して悪き香と去るところ或ひハ石炭と貯る処ありりて
 甚だ廣大あり金銀座あり金銀の細工ハ蒸気機関の仕
 掛と用也
 蒸気機関の事ハ初編「サンフランシスコの條下小あり
 以金銀座の内ハ我國の土産の如く建一家ありて中ハ軍
 用金と貯る事金山の如くありて見る者眼と驚うせり
 又市中ハ四方十町やどの庭あり中ハ数層の高樓魏々

とて聳え建周田あ一面種々の草花と植こいて其美
あると華紙小尽一が花園の中央の高楼と心ふりて丸
く輪小取ら馬場ありけ処不て男女常小馬術の誓古
とろ或ひ車と曳せる馬と馴すあり都て市中の往來へ
大石と繋つめ其中へ馬車の道と造る當府ハ亞米理加中の婦
人の羨ある所とり傳信扱ハ華盛頓府ハルチモール府又
け所何とふても少一繁華の市街ハ必ず掛
傳信扱のみの初編「巴那麻の條と後の「紐約の編と
見て詳あり
け地「紐約「波士頓府ハ次での繁華をとい百物備わらず

と云ふと「華」といふも多々華盛頓府の條下小出せば爰小
畧す
再説小せ一日ハルチモール府と出立せ入々の蒸気車と北
小向つて走らす小途中人家稀小く山遠く林ハ緑とみ
草ハ茵と連ねるが如き郊原と往て五六里小一筋の
大河の岸小至る小「ボンボウトウスリツキといふ名の橋ありて
都て鍍と以て造る長サ十七八丁河の巾ハ九一里午刻時へ
ヒリテクリスと云ふ所へ出る小大いなる河ありて名と
ハ「フルテガラスと云ふけ河ハ水勢早く強雨のこあ小
橋と流せり度々あるとい渡りと成りよ小て蒸気車と

乗る蒸気船掛より其船お日の丸の旗と合衆国の旗とを建
 造り船の上と平らお張り若鉄道と設け兩岸の渡一口お
 へ棧橋ありて是と陸より船お掛け水の増減お拍らず陸
 と船と相通するお仕掛より蒸気車走り来つては船
 おおると船忽地お走り出車へ止まらて動かず然して船向
 ふの岸お着は蒸気車も走りてお陸へ上り船へ戻り
 て元の岸お帰る其妙巧の大いなる実お驚くお耐より
 処より行と五里をよりおしてウエミンクルンと云ふ大いなる
 村へ出る人家三百軒余寺院の類ひも多くんえよりハイ



フルデガラスよりは「ウエミンクル
 ン」の向尽く松林あり稀お
 畑ありて麥黍豆などを作り
 ると見る牛豕の野飼あり
 多し晝八時半時より「費勤
 特費府お至るお府の入口お
 馬車数十輛を扣えて我朝
 人と待故此処より馬車お乗
 替へるお兵卒三千人小銃
 と持ち騎兵千人白刃と携

西洋新書 三編之二

何とも装束冠物の羨と尽一列と正しく警衛す馬車の左右
 ふへ市中取締り役の者五百人木造りの十手と打振る
 足物人と制し止む是は何とも力量の勝り者と撰ん
 用ゆりよ一は驚固人皆胸小日の丸と合衆國の旗章と
 縫ひ内四十人など其傍ら我ら日本朋友の来ると
 賀すと認めあり是は支那人の書あり市街の入り口
 より旅館まで家毎小日の丸或いは大日本と書し旗或いは
 合衆國の旗と窓より出り大いなる向ふおの高樓より麻
 繩と引き中お提げ小ありいお手持て五階六階の窓より
 日本人の車と招き女の白き手拭と以てみるもあり男へ

大声と傘一冠物と取り是と上げ下げして招く棧敷の花毛壇
 足物の群集我國の奈礼の模極やく神輿将お渡らんと
 みる時お異あらざ其方け方より我朝人の車の中へ美しき
 草花と投げ入きて贈り市中と廻り往て下時余ふりく夕七ツ
 半過旅館お至る門おお騎馬百人劔と持歩卒三百
 人流と採りて警固おせりけ国お斯の如く多勢の護
 衛と出せりい古来始めて成と云り旅館の廣大お座を毎
 小物置湯殿雪隠とあり風呂へ何時おても捻止と廻せば湯
 水例の如く自由お出で便ありけ家造りの大いなり美麗
 ある小い人々一同お目と驚うせり

廿二日西洋布と織出す蒸気の機場と一見せし綿と打ち糸
と引き布と織のときを皆蒸気の運動にて為し傍らふてい
紙と折活字判と摺立多し次は洗濯所もありて是れきき
蒸気の仕掛と以て衣類の汚すと、おとす其功実妙と
尽せり

廿三日朝六ツ時出火あり消防の人数一組と分ちて押
出り来り其持出りたる具へて尽く日の丸の旗と合衆
國の旗と附りけり日午後よりテラワレ河の畔へ往りて
東京飛鳥山の趣きありて松の大木の間より四方と見
晴し風景最り旅館よりけり二里半と云ふ

廿四日旅館の見物人の内
年若き婦人ありて何とも美
しき我朝人争ひて窓へ出
てもと揚て礼を為せば婦人
あもと歩いて礼と返り程
は処と立去りしが傾て美
艸花と携え来りて敬言固
者へ頼り我朝人へ贈り名札
と乞けとば花と貰ひて謝
名札と贈り三人の婦人喜



悦んで去るは国の人本朝人の手と握り礼を為すことありき
 帰宅して是を祝ふと云ふ本朝人と愛敬するを斯の如し
 廿五日旅館の窓下へ十六七才の美しい娘来りりし我朝人
 是れ扇子錦繪をどと投げ与へその娘の名札と望みけり
 娘一人し日本入より餘り不多く物と貰ひて妬み年
 若き亞人ら打集りては娘を嘲弄り果て突倒し我
 朝人の手えり品と奪ひ取て逃去り因りて警衛の士
 卒出て制し止め娘を送りて其家へ返せり是より窓
 から物を投るに至つて厳しく然れども見物人の中より
 我朝人小物を贈らんとて窓の中へ投入ると多けりども

我朝人は是を拾ふと禁じり
 廿六日旅館中へ大力の女あると云る歳三十三のより肥
 太りよりとりども美しくは女米二斗と入る鑊の大い
 鼎と両も不持て竈へ上げ下ろしすと最も怪しむふ並
 の男の三人力あるべし然て亞米理加の国の者の男女共
 手の力多しと言ひ
 廿六日風船に乗る者ありあり是を見物めんとて
 立ち出る小旅館より一里ほど往風船と揚るの廣場へ出
 て四方へ残飯を構え見物人数百人其上へ居りて
 風船を見ずして皆日本人と見る風船は今日けり

昇りて「紐約府」往と言ふ常あり是へあるとと禁じ
どもけ度ハ日本人ハ其工風の巧妙あると見せんが為不用也
言ふ

風船の夕ハ華盛頓府の條下ハ委リけり爰ハ省く
ハ日夜ハ入り火消の人数九六十組一組ハ一ツブ蒸氣と仕
掛一馬車ハポンプと乗せ其上ハ美一草花と飾り
操出ハ来るハ八九千人外ハ日本人の衣類の黒羽二重の
紋付と着ハ鬘と冠り思ひくの出立ハてる車ハ又ハ
額燈籠ハ仁義礼智信と書車の上ハ飾り是と草花
ハ粧ハ我國の満燈の如くハありと馬ハ引せて来る

ハ在リ何とも旅館の窓下と往返ハ彼の火消の人数ハ惣
勢十六組ハ毎ハ数本の花火と持リ又音楽と奏する者
百人余ハ樂と奏して先ハ立バ彼の八九千の人数ハ
ハ進ハ一声号令とけり相圖ハ各整リ持ハる花火ハ
火と移せばハ千の花火一度ハ発リて空中ハ昇リ発リ其
声恰も雷の如く其火ハ紅白黄青ハ擴がりて大空一面の
花とあり光ハ窓の硝子障子ハ映リ明らハるハと益の如
くハハ壯觀壁ハハハ後ハ至リて惣人数ハ持ハる
花火の数の限りと乱発ハ打出せばハ進ハる火の玉ハ物人
の天窓の上ハ落ハるハ雨の降ハるか如ハといハとも筒袖ハ

して冠り物あり然のこお恐とす数万の足物人興の
声と登りて夥しくは花火凡十四五町をども続くと思
ひきて趣向の大いある眺望の美くしき筆紙小述尽し
難し

廿八日朝五ツ半過各馬車小打をりて「費勒特費府
と出立あり」新紐約さきてぞ急りり

○新紐約の説

「新紐約ハ千六百年今より二百七十二年迄の頃和蘭人ハ
國の南の地方小来つて土地を開き新和蘭と号けり
千六百六十三年今より二百九年迄のころ英吉利人一軍

と率ひ渡り和蘭人と遂ひ其地を奪ひ改めて新紐約と
号け人種数百と移すと雖も尚寂寞たる寒あり
日々夜々小繁華と増し今ハ亞米理加島中第一番の大
都會とあり世界中めて家数人員の多き都と言へ
才一と支那の北京の都とあり才二と英吉利の龍動の
都とあり才三と日本の東京の都とあり才四と佛蘭
西の巴勒の都とあり才五と合衆國の新紐約の都と
ありす然るべ家数九十三万軒人員九十余町々の往来ハ
井字不通し東西の長さ三里余南北の長さ二里余あり
て港の内ふへ各國の高船橋と連ねて材木河岸の丸太

新埠の漢圖



の如く遠近の川蒸気船煙
り賑はるゝ民の竈不整
く青く彩色一屋形造りの
渡一船あど白く塗る猪
牙仍ひのハツテイラあり大
船帆と張て新ふ波間の山
とみ蒸気船煙りを揚げ
忽地水上小雲と起す早さ
と欲する飛脚船重きと預ふ
産物船朝と報ずる軍艦の

大砲タアと促がす番船の喇叭さも小廣き川口も僅々小船路と
通するのこあり儲まゝ陸ふの運上所と始めとて諸院薨と
連ねて建るらび佛殿あり講堂あり芝居あり観物場あり
青物市あり野菜菓物山とるゝ渦高く有河岸あり獸鳥
魚肉土手と築いく夥ぐ照日小羞明き四辻の干尺世雨雲小
色増す檐下の草花や肩の強き小誇る曲馬の觸着板
あま声の喘濁一を哀む新聞紙賣の呼子あり
新文紙の盛ん小行へるは「新紐約府と英吉利の
首都の龍動と以て世叟中の第一と為すべし」新聞
紙の日々小出版するもの有り或ひは五日り或ひは七日め

小一度出板あるものあり何れも速うあると考ふがゆえ小
 蒸気の仕掛を以て摺立とて十万字余の板を一時の
 間小一万五六千より二万枚と仕上る小至るは書出来
 上とて直小諸方へ送る小蒸気車蒸気船を以てする
 故其神速ありて声の訝小應ずるが如し新聞紙小記
 す野の國政の評議役人の得失兵廢政府への建白書
 等と始めとして大津繪の鬼が奔起して鉦と叩き
 よう鳥羽繪の摺小木小羽根が生て飛くと云ふ類ひ
 他國の噂さ自國の話何小因らず耳折らさて出す
 あり然るに新文紙餘る小夏と公明小誌すや急政事の

機密と洩れとて仏蘭西小於て一度停止とありこれども
 我程ありきと摺出の多と成り新文紙小の人と褒
 るも頭へさしとて誹謗もきく頭ある故誹謗とて者怒り
 小耐ず間新聞誌の會社小来り大い小議論小及ぶ
 正あり然すも其翌日の新聞紙へ議論小来りて出して
 彼根を言さるるものと記す新聞紙へ他より金と出
 て是小委するとて頼むものあり又板元にて金と出して説と
 求むるものあり故小新聞の種と探り歩行と日々の業
 として生活と立ち入あり新聞紙へ居るうらよして世の
 中のると一見ある小足とては國の人新聞紙と見るを

以て樂しむるものと為す者多し然れども新聞紙の所
 町の會社にて新しきと争へり市町の風説の傳と記し
 根元と極むるに至らぬものも間違ひなく一記を以とも
 言がく然りながら間違ひ多き會社の新文紙の賣
 悪く成り往々先確ある証拠を得て後小誌すと
 常と為す新聞紙の行へるの價と下直くして反古と
 買と較正しくあらと以てあり故一見ありて後の多く反
 古小替てをふは板前おも言るが如く他より頼之来る
 のと摺出すは其文辞の数に因り定まり一價あり
 て是と採るごとみむる斯直段と安く賣出さるる

物と言ふ
 市中往来廣くして車五六輛も双べて曳すべし人へ多く
 家の軒下と以て往来と為す蒸氣車の鉄道の四方八
 方へ通し傳信扱の銅線の蜘蛛の巣の如く小張り
 初編へ新紐約より東方西斯哥への狭道普請
 最中の由と記しより一は狭道既ふ成就して蒸
 氣車の往来今自在なるの新報あり抑亞米理
 加合衆國の西の地方の高山大川多くして樵夫獵男
 の往来す略さる未だ閑けざる程の悪野あり一が終ふ

人力の奇功を以て一條の狭道と冠き西の海岸の「東方
 西斯科より東の海岸の「新紐約まで一千四百里余
 の路ふいて土地の最高き処へ海面より二十三町をど
 登り我加賀の國白山の頂ふ近き程の場へ通し八日
 七夜ふいて蒸気車彼方け方へ達するよー其普請
 の廣大ある誰人う是と驚うざらんや合衆國の狭道の
 千八百二十九年今より四十七年おと始めとる一夫
 より次身ふ冠けて千八百五十五年今より二十三年
 おふ至りての狭道の長さも真直ふ伸して六千六百
 五十七里余ふ及びより花とぶ今ふての倍増加一

一万里ふも勝るありけ國東北の方へ大いなる河ありと
 りども山岳少なき故を以て狭道直ふして平坦あり
 蒸気車の立場き最初の一車ふて乗替ずふ二百里三
 百里の遠きを走る火車の輿大きくて人の住居の如し
 然れども「東方西斯科より」新紐約への狭道の峻岨の地
 のこ多きふより大川への長橋と渡り絶壁の高山のけ方
 の林麓より彼方の林麓へ掘抜て洞穴の道と造りたるも
 もあつはそへり近頃は狭道と經て「新紐約府へ往き
 くる者あり遠くらず歸り來るとの詳あると得て
 再度是と記すべし

又鑛道と通ずる処へ必ず傍に傳信機と張置り
是れ今日何時に蒸気車はとて発して何時に
其地へ至るといふとと報ずるがめあり然れども傳信
機は鑛道のあるを不抱らず是と張て諸事の便宜
不用むとて其銅線の長きを漢道の里数に比較て
知るべし

地夜に入りて往来の人倍多く路の両側へ建並へる
橋の高燈籠數十町へ連り家々の入り口の上へ掛
「ガラス」の燈器其数百も過るものありて一般に燈と点
す不明り窓々の硝子障子へ移り遠く是と見渡せば



料理茶屋の
集客と
宴

月下の露に光りと添ふ珠の世
東も斯やと思はれ近く是を詠
むとて我が国東京の花衢の秋
の燈籠は九牛の一毛程も及ば
ざらべし始めてはるものには是の
景色の為小腰を扱さぬ斗りか
まとも住馴し人々の眼も止
まらぬ恩行小玉擲りの勝負
争ひ料理屋の生酔言ん方
かき眼ひふ往来の人の音

馬車の夷く声の絶るハ夜の八ツ時ころより七ツ時ころ迄の間あり

市衢の家居の廣大旅舎の立派等へ華盛頓府以来大同小異あるの之成まへ是と記さず前小諸院との之書ら物の一二と挙て爰分ふハ病院貧院啞院盲院学校文庫等の館舎あり

○病院ハ貧乏人の病不罹り醫薬を用ふべきもの成らぬ者のみお設けらる館ホて政府ホて是と建つ又都下の陰徳者打寄り私小會社と結んで起せりもあり然まとも病院の尖費莫大なる有徳

の者と雖も力及び難き小因り志あるの人小頼んて患者の爲お投財の寄附と乞請その金と以て長く病院の取續き方出来る振小法立と設るあり入院の病者極貧るまば都ての入用と出さまとも今日の活計とら程の者ハ其人の身代小應て醫藥の價ハ勿論万のの雜費と拂ふあり男の病人小ハ男の介抱人附女の病人小ハ女の介抱人附あり病者ハ時小附つて減加あるまとも何まの病院ホても一々年小ハ二二万人と療治まべり又有徳の者ハ外宿して病院へ通ふあり是もまとも二二万人小及ぶと云ふ

○貧院へ老人幼少或ひ病身も五體不具ふして活計もろく難く貧困に迫るものと是非入るも老人の身終るまで養ひ置病身不具の者も力不及ふ所の業を授け幼少の者へ其才不相應せし職業を仕込十八九才より二十歳不成り活計の立たざれば至る他へ出でて世帯と持するあり又壯年の者も病難火難賊難何れ依らず格別の損失を以て貧困窮るに至るときの暫時院へ入りて急場を凌ぎ活計の方成るふ及んで他所へ出るもありといふ

○棄兒院へ貧窮して兒を養ふと成り難きもの或

ひへ密通をとりて子を生じ表向に育つると能はざるもの多し皆其の院へ來りて棄てられ元來密通するもの嚴しき法度を以て兒を脱すに密通するより其罪重し子と棄るに誰しも耻する所あり人目も立ざるやうに出來る仕法ありてあり院の構えの外に鈴と掛置て兒を棄る者も鈴を鳴りて去るといふ院内より役人立いで棄るる兒を拾ひ揚げて役所へ抱へ往直し乳母を附諸子叮嚀ふを死して養育と加え頃立ふ及んで貧院へて幼童と扱ふの法と同ト斯の如く兒を棄安き極む仕掛置さるる孕し女

薬を用ひて脱胎する一又産落しても潰するもの甚
しき小至るとあるが故ありとぞ貧院棄兒院も
政府よく建る物るまども私小會社と結んで設くるも
あるは病院の法とかるド

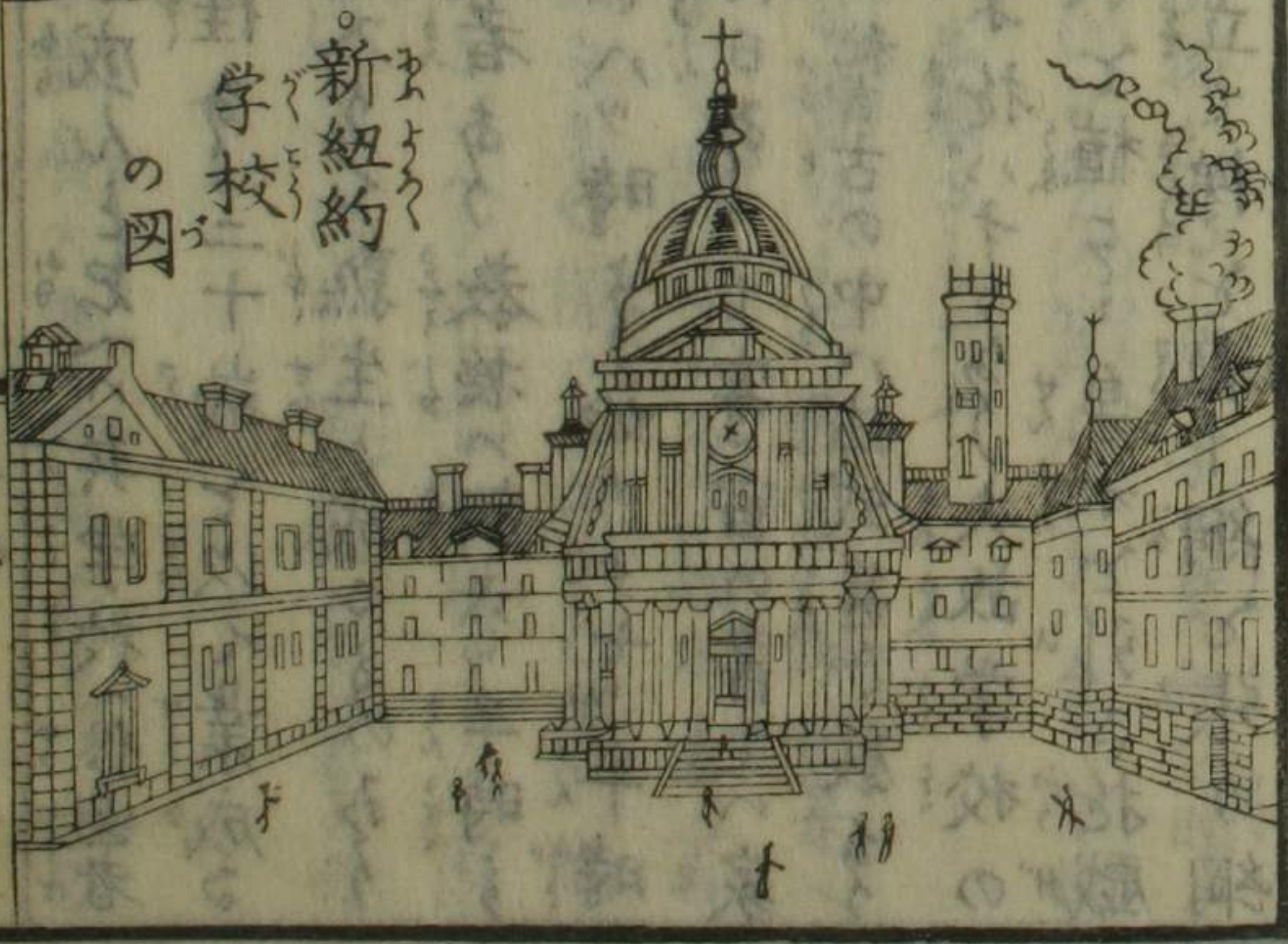
○啞院へ啞人と教ゆる学校あり「啞子へ性来音声と
発するの機械ありといふも耳の穴の通せざるに依りて
人の詞と聞覚え夫小效ひく五音と働うすて出来ぬも
のあり其證扱ふは笑ふ声泣声へ常の人と異なるを
然とバ啞も聾も教え方一つありて算術天文地理学を
い何とも尋常の学校と變りる一其教え方へ鳥獸

草木家作衣類諸道具と何小限らず一切の物の形
体と画小書き画の上の処へ其名の文字と書き指と以て
教え教ゆる人の物言ふとき唇舌齒などの運動とんせ
て是と濫えさせ音声と出すととて字バするあり既小
音声のゆる小至ると次で諸の言辞と覚ゆると云ふ
○盲院へ盲人小教ゆる学文所ありて書と読とて習ひす
ふ紙へ文字と浮出させ指の先小て按さするありさ
地圖の如き針と以て紙小孔と明け海陸の形と畫さ
是と探らむ算盤へ算木の如き物在りて彼方け方
運動せ加減乗除の法と覚えさするあり盲人の日本

と同日のみて男女とも多し音曲の業と習へりむき
男の業不へ裁と織り籠と編女へメリヤスと組む
どと職とありて是と市不彌爾ぎ日々の入用の且と
す大抵六七年ありて学術ありとらふ啞院盲院とも
不是まゝ公私の差別仕法へ前の諸院と同ド
猶種々の院あとも事繁けとて爰不省く

○学校へ「新紐約」不限らず何もの都府如何ある偏
鄙の村里不至るまで建置あり政府より建て人と
教中ものあり又い私不学校と建て人小教中物あり
男女とも七八才不至るまで皆学校へ皆古不往初め入る

学校と小学校と云く先づ
を習と一其国の歴史と始
めりて天文地理窮理の
書と読しめりて美術と教
ゆらり斯りて十五六才不
至り又大学校へ入るは学
校も小学校と衰りたる
とみりとりとも今迄より
追々不高さ処と教中あり
然りて是より我が志す



処の学三術へ移り武士不成人と思へ兵学校へ往函者
不成人と思へ醫学校へ往あり二十歳と以て業成る
の期と為す学ふ不校へ入りて熟生と成るものあり
家不在りて日々不通ふ者あり教授ハ朝六ツ半時
始り晝九ツ時不終りまゝハツ時より始り夕七ツ半時
不終る七日毎不一日の休日ありて寄宿の書生ハ家
不帰るあり学校の規則秘昔古の中ハ法式甚と嚴多
とりくとも間不意の休不拖ひすあり夫故学校の
傍ら不園在りて草木と植ると泉水と引き拖戲
奔走の地と做し又柱を立て梯と渡し網と張り網

と下げたどして学童の拖び物とあり苦学の背阿と晴さ
せ且身體として壮健をらむるあり貧人の子ハ貧学校
ありて入費と出さす昔古出来ると云ふ
○文庫ハ自國不て出版する書ありて其書一部と是へ
收めり外外國の書ハ買入ると貯ふるあり故不古書
新書俗書図画とあり不至るまじく備つらざるとあり他
より往て読べ勝手次第といふとソレどもと借る家
不持帰ると免ふるありけ庫内不の書籍百万巻の餘
と藏すと云り
府の内不諸人拖觀の場とあり最廣大多の花屋あり十万

坪余の構え小く種々の草木と植て春復秋冬花の
 絶る時を取分て五葉の松と櫻の大木小面白き木振り
 多し築山の模倣どり妙小く凸凹の間より種々の花と見せ
 泉水へ八方より流と引て満むと池水漫々とて堪え
 浅き処へ水草と植て花と咲せるとて風景絶妙小
 眺望の美ある実小筆紙小尽し雅し天气能日ハ花
 歩の人々け処小来ると東京浅草寺境内の花屋敷
 の如し
 新約組中猶記すべきの澤ると猪数と惜て爰小省く
 ○廿八日費勒特費府と出立ぬる人々の馬車小乗り

二十丁をど来りて「テラワレ」と云ふ大河小至る水中十町をり
 小く蒸気の渡り船あり是小乗りて彼方の岸へ打越し
 夫より蒸気車小て走らせ午刻ごろ「アンホーエ」と云呷へ出る小
 兵卒数百人警固とて出張し又十三四より十八九までの
 娘と三十人小男姿小持へ旗と持せ「子ウヨクフリンセス
 へ」と言ふ河の岸まで送り来るは処より河蒸気船小
 なる小入江もまとも波高く右小「ロング」嶋左り小「スタツフ
 ア嶋」とんて進むは処西の岸小臺場ありて祝炮と弁合
 衆国の軍艦小て祝炮す斯く「新約組」の港内小入り未
 刻上陸し馬車小なる小車の両脇へ三尺小丸を捧

西洋新書 三編之二



と持る警固一人づ附添ふ
途中ふ騎兵二千歩兵
三千人余集り小銃長刀劍の
類と持て調練せらるる
是は地の警固の人数ふして
英吉利佛蘭西阿蘭をどう
馳走の警固と出りけま
惣人数一万余ふ及ぶ一隊毎
小装束と分ち例の如く音
樂の律ふ合して進む又婦人

三人一尺ほどの箱と脊負人往あり是は戦場ふ疾と蒙り
或ひの病ひと清る者へ与る菜と入とと箱のより一里三
二三町ふく旅館へ着す往還の見物人旅亭の摸振は是迄
の都府と同トけ家も七階作りふて実小廣大あり「費
勒特費府の宿屋も爰の主人の店ふくお年英吉利
仏蘭西都児格の三國と魯西亞国と地中海ふ於て戦
争るせし時合衆国へ魯西亞ふ加勢し旅館の主人へ「タイ
ロンのコロ子ル役と命せらと騎兵三百人歩兵二千人と率
ひて大いふ戦功あり」と云へりけ人大いある宿屋と五
軒持るより多日へ市中商賣惣休こるり

廿九日昨日より昼夜とも小旅館の近辺に数百の兵卒銃
と持調練して往返す當地の各国より入り込る者多
き故取ら念と入ると日本人と護衛するにぞ
五月朔日評定所へ至る途中の警衛厳しその摸拵は是
まぐの所々と同ド

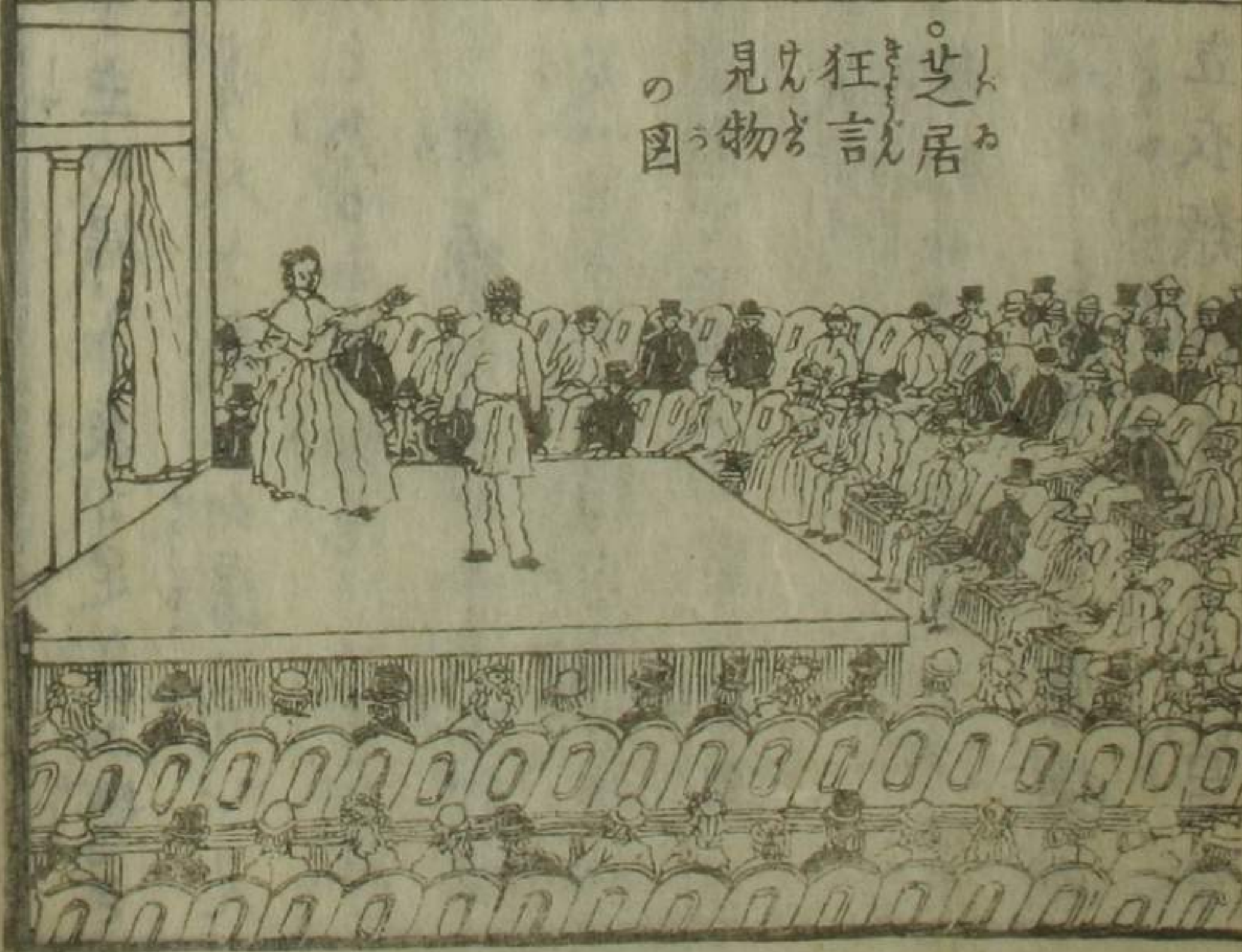
二日雷雨あり旅館の内不落し噺の寄せ黒人の芝居ま
土人の芝居もあり廻り舞臺せり出の仕掛本舞臺
の摸拵とも東京大坂などの芝居より大廻りあり狂言
の仕組の強盗の住居の拵不本舞臺一面小我々る
山と見せ盗賊の頭許多の手下と共酒宴をわけて小賊

ども代りぐみ踊りけ所作すむ所外より三四人の小賊一人
の婦人と引来り賊の頭へ差出せば賊の頭へ打萎とる女
の身を採り抱恤り愛して掻口説ど女へを面接待とれも
心不遣へんとあるさま種々の思ひ入とありて幕とある足物の
男女へは間不側の酒店へ往て酒を飲めれば菓子見せ
往て菓子と喰ふあり酒店菓子見せへ何も旅館の
中不在り斯くて又元の椅子へ来る足物人の狂言と
餘所不て両眼鏡をどめて日本人と入る斯くて幕明は
舞臺へ矢張山中の景色なりと剣と帯しる士官
体の優男我が女房と賊不没はと後と追り来る

け時前ふ捕りて女山賊の住家と逃し来り山の細
道ふて夫小往逢ひ兩人とも大い小喜びふふと把
りて坂道と馳る小女の足の不果放行間ふあま多
の山賊追うけ来り爰ふて士官体の男と小賊人の
立廻りありて終ふ兩人とも捕はるとあり再度山
寨へ引戻さるとあり賊の頭ハ士官体の男と種々小
責嘖こ苦む体と見て笑ひ樂む立敵の仕打防分
悪々しく女の夫の苦痛と見る小忍びず賊の心小防ひ夫
と救えんとする思ひ入と仕打るど我朝の物と憂る
とあり次幕へ道化の仕組より人の女房密夫と引

込こ少一濡の仕打ある処へ亭主の帰り来る足音小驚き
密夫と戸棚へ隠す亭主の外より入り来る女房の間と見
て密夫と戸棚より出逃さんとあり小都合思ひけし亭
主と透して他行と勧むとも是と察せ小や亭主出仕に
は一場兩人の仕打大い小人と笑はせたり又後方面の所作
ありありおと亜米理加人ふりて後方を日本人小造る種々
ありとも潰々けし省らく記さず
三日他の芝居と見物す是は新狂言のより小日本伊豆の
国下田港小於て合衆国人の「ベルリ」と日本人との應接の
模様あり或ひは日本人小出立立衣類袴を今まで皆日本

の物で用ひて踊る諸方の芝居
小て日本人不見物と頼むて
頻りあり是ハ日本人芝居へ迄
入らば日本人と見んとく其
芝居大入りと為せば多り市中
の人々日本人と見んとて芝居
の入り落しと云ふ
六日啞龍の学校と見物せし小
啞と聾三百人小居り又盲目
の学校へ往し小盲目八十人を



芝居の狂言見物図

居り
四日花屋敷へ往し小婦人大勢庭上へ踊りて見せ
しむ
五日観物場へ這入りし小虎象其外の寄獣を集めり
数十の熊ありて何とも牛より大きく人と角力を取り
木登りるごとく見せしむけ処小黄鳩居り
六日諸院諸学校小至る
七日日曜日小付市中商賣を休む此日大工植木屋其他
の職人数多来りて旅館内の舞臺と造作り又草花を
どと饒り夜中といへども休むと云ふ是ハ明日日本人へ

馳走の大踊りと催さんとの支度あり
八日昨日の支度出来上りて外へ豎五十間横三十間斗り
ある廣座一き新小舞臺と設けし庭上へ美草花
と焼り庭より舞臺へ数万のランプと掛双べく燈火の光り
玲瓏として露より麗はく藝者踊子の類ひ五十人余種々の
粧ひと為して舞臺一面の大踊りをりて天ひ女の月宮
殿不拵ぶみらねば歌舞の菩薩の浄土曳も斯やあら
んと思ひをら心恍惚として見物做せり群集せし外国
人の大い酒宴と催し曉天ふりくるまで猶交代不踊
りあり

九日暑気甚く強しお年我国へ来りし「彼斯」の家を訪ふ
「彼斯」死し養子の代と成りし「彼斯」日本へ渡来せし
節写真鏡と以て諸所の景色と移り取りて返りし其
画の額と許多掛り家作諸道具とも尽く美あり亭
主より酒菓子と出せば時矮物二足来りて往し
者の衣類と嗅ぎ日本人と知り飲ぶと限り膝
へ上り袂と嚙へ少し傍と放れず毛へ「彼斯」日本より連
戻りしものも日本人と見て駭来り飲び慕ふる斯
の如し故不帰らんとする不及んで別と惜し或は吠
或は啼其情人間不異ると云戻り道不風船の

西洋新書 三編之三

空中と往とる是へ新紐約へ来り船を走ると往
けといふもとも空中と往ときい船高くして疾く飛び
目ふ見えずと云ふ

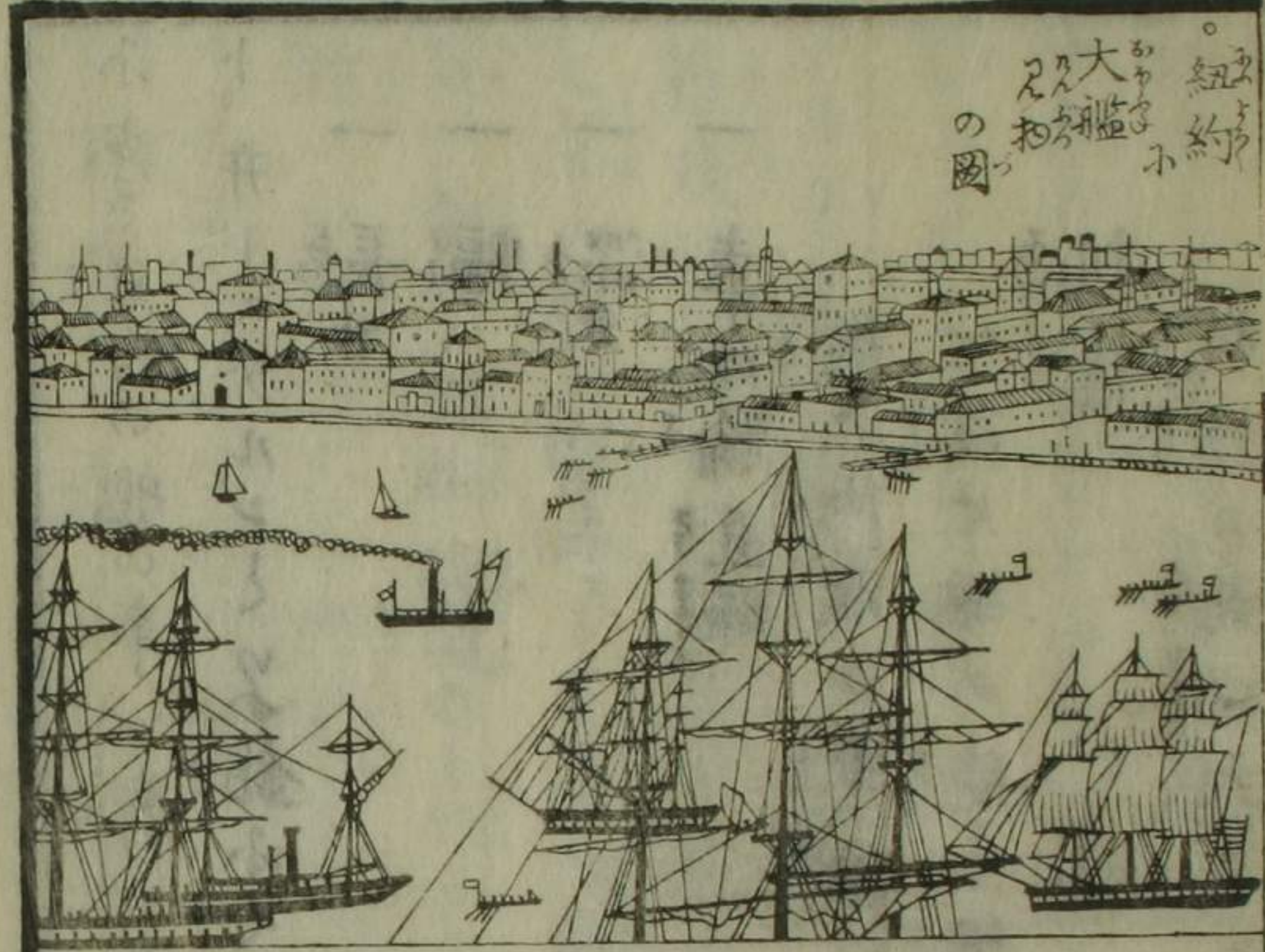
十日手妻と足物す其場所正面ふ高座ありて美しき
箱或ひい種々の器等と飾り置て四辺ふ数百のランプ
と点りて暫時して異人兩人高座へ登り口上終つて
品とをふその扱我國のものより仕を大いふく術を委く
種々の所作あり何とも奇なりて面白く
十一日英吉利の女王世界第一の大艦ふあり日本人と
足物ふ来りよりの風説あるふ因り彼の大艦と足物

小由目まの艦の事と書る新文紙をみる小艦ハ「グレイ
ト」井「ステルン」といふ銘ふく

- 一 長 百十五間二尺
- 一 幅 十三間五尺
- 一 深 九間四尺六寸
- 一 車の輪直経 九間二尺
- 一 艦の両腹小車輪と備へ艦の尾小螺旋の車
と設け艦の腹と艦の尾との車の力ふく走る
- 一 帆 六本
- 一 帆柱の直経大もの三尺六寸小もの二尺

西洋新書 三編 二 二五

紐約の大船の図



九寸高廿大あるもの四十二間
 小ありもの三十二間二尺
 帆桁の長廿大ありもの三十二間
 二尺小至る
 一帆布の濶廿 四十二間四方
 一錨鍊の長廿 十三町二間
 一荷の積高 五万五千石
 一總乗組人数 四千五百人
 一艦一時ふ十八里より二十六
 七里と走り外側総鍊作り

ふく中の造作も鏡と以てせしところ多し艦の内外二重あり
 外側は害あるも内側の板をさしゆれ且又中の艦の上下二艘あり
 故に振れ造りしれれば下は害ある上は損ずと云ふ
 下の恙がらる故に是と別れば三艘の船とあるべきの結構
 あり英吉利の海中の一孤島ありと以て國人遠く海外へ往來する
 通商と専らふするより會社と結んで
 此大艦を造り出し今東洋通商社中にて是を
 持つと云ふ

十二日新紐約の旅館と出立し馬車ふく二十五六町往
 波戸場より河蒸気船ふより一里余と走りらせ軍艦

「ナアヤガラへ乗組り」
十三日午の刻艦ととさく「新紐約」を開帆る「亞非利加洲」
さくぞ走らりける

○大統領歴代畧記

千七百八十九年今より八十三年ぶの四月三十日「新紐約」
ふ於て華盛頓大統領の任と請りより国と富り兵と強く
するの政治と設け且外国と交る信義と厚りて新国
の威名と賤さず在職八年の間内外とも小平穩あり
千七百九十一年今より七十五年ぶ大統領の任と「ジョ
ン・アダムス」不讓よりい時「佛蘭西」人兵とあけり合衆国

と討んとす其故へ合衆国獨立のちの佛蘭西ふて助力をせ
り「トマス・ジェフソン」に「佛蘭西」の事件も僥倖より平穩
國人傍看りて援兵と出り来らざると怒りくまり爰ふ於て二
代目大統領「アダムス」海陸の軍と備へまゝ衆人の希望とより
因り華盛頓とて陸軍の大総督とるることども華盛頓い
くちどき病死る「佛蘭西」の事件も僥倖より平穩
るりより「アダムス」在職四年ふりて千八百一年今より七十
一年ぶ大統領の任と「ゼツフェルソン」不讓り「ゼツフェルソン」三
代目大統領の成りて其国いよく盛んるふ至り英國人
是と嫉妬りて「亞米理加」人ふえりて「恥辱」と与へりて「亞人」ら

怒り小堪えず遂小兵と奉く千八百十二年より千八百十五年まで四年の間戦争小及びビーグ再び和睦調ひたりは戦争小く合衆國人の討死三万人餘小及びひとり斯る騒乱の紛と小糸ト亜非理加州中の「アルゼリイ」と云ふ國の海賊合衆國の商船と奪ひ取りたる小因り千八百十五年今より五十七年おの夏海軍總督「デカチー」ル兵艦と卒ひて地中海小入り「アルゼリイ」國と討たり小忽地小降代り「償金」と出りて事すこころ具ふ「仏蘭西」の領地ある「ローンヤナ」測と千五百万「ドル」小く買うけ合衆國小合せたり「セツフェルソン」在職十六年小ありて

千八百十七年今より五十五年お大統領の任と「セームス」モンルー小議り「モンルー」四代目大統領とあり千八百二十年の頃より「奴隸論」発りたり
合衆國の南より小くの「亜非利加」島より「黒坊」を買ひたり是と下男とありて身終るまで「牛馬」の如く小使ひ人の道と尽させざる小因り天理小戻るの解と以て政府よりは「風俗」を改めさせんと為れども然し南の國々小差障り多き左をを用ひずして終小後世小至り大乱と引出その「基」を醸せり「丹」別小冊とる「奴隸」より事発りたる合衆國南北戦争の始終と記りては書の

卷末小加えんとす

是小依りて千八百二十二年南方の獨立と許す事と成りぬ「モンルー」在職八年ありて

千八百二十五年今より四十七年お大統領の任と「クインシ」アタムス小譲り「アタムス」五代目大統領とあり在職四年ありて千八百二十九年今より四十三年お大統領の任と「ジャクソン」小譲り「ジャクソン」六代目大統領とあり時小「耶蘇宗門」の事よりして南部の国々兵と起り千八百三十一年より翌年小至るまで騒乱あり又「亞米理加」の土人と戦ふと兩度「ジャクソン」在職八年ありて

千八百三十七年今より四十一年お大統領の任と「マルチン」フハン「フリーレン」小譲り「フリーレン」七代目大統領とあり合衆国の北隣りある「英吉利」領の「カナダ」国の人民乱と奔ると合衆国より「應援」を乞ふより「英吉利」と「亞米理加」の間が不和とありお小兵端と罷んとぬるお及べり「フリーレン」在職四年ありて

千八百四十一年今より三十二年お大統領の任と「ハリソン」小譲り「ハリソン」八代目大統領とあり僅うお一月おしく死す故小副統領「ダイレル」次て九代目大統領とあり「ダイレル」在職四年ありて

千八百四十五年今より二十七年お大統領の任と「ゼームフ
 ホルク小讓より「ホルク十代目大統領とより「メキシコ国と
 戦争あり

以戦争の畧説の既お前偏「桑方西斯哥の件お出せり
 「ホルク在職四年おいて

千八百四十八年今より二十四年お大統領の任と「テール
 小讓より「テール十一代目大統領とより「カリホルニヤの地お
 金礦山のあると見出し「大平海岸と大いお開拓す「テ
 ール在職三年おいて急病お罹り死す故お
 千八百五十年今より二十二年お副統領「ホルモール十二代



二代目
 大統領
 「ジョン・アダムスの像

目大統領とより在職三年
 おいて死す因りてまゝ
 千八百五十三年今より十九
 年お副統領「フランキリン
 ピールス十三代目大統領と成
 る「頃より「奴隷論再び
 争り戦争数回お及び「
 「ピールス在職四年おいて
 千八百五十七年今より十五
 年お大統領の任と「ピユカナ

西洋新書
 三編之三

千八百六十年今より十二年おアブラハムリンコルン小大統領の任と讓るリンコルン十五代目大統領となり倍奴隷の論さのさち北部南部の大戦争とあり四年ありてを治らざりしが南部終小打負け稍平定と為さんとするとさ南部の刺客大統領リンコルンと劇場の中小小筒と以て打りくバリンコルンはがめ死し

千八百六十八年今より四年おアグララン十六代目大統領とありけ時小至り南部平定して奴隷論もとと止り

華盛頓の代々の大統領なる賢明小しく私意多く実小亞米利加合衆國の如き世界始りてよりの共和の邦土とらふべきありとて各國とも小是と称せり

米理賢ハ東巡りして歐羅巴へ出るの道都合ある故素通りぬんと思ひの外け処小暫時取りとるハ皇國の人々が歸船の順路とも捨置べきあらねば行そのの一ニツとかり括んで愛小記に

五月十三日「新紐約と出帆せし船ハ六月朔日亞非利加洲の中シントウインセン島へ着すけ地ハ蒲萄牙の所領

あり土人黒坊ふりて筒袖の衣と着り女の袖をき服小腰
より下へ馬乗袴小類しる物とて何れも素足をきとて
土地へ海岸より山上ふ至るも焼砂の如き物のこるれ
草木とも小甚少る一は島水ふ之く只一ヶ所僅く小
湧出る清水あり天水と貯へ置の外へことと飲料と多す
清水と汲るとふい各一升入不どの器と持来り順番小
あり然れども清水湧出ると少るけとて器へ一杯小満
きぐ小い半時かると言り當節の早魁ふて島人いふ
飲水小難汲ると言へり
同二日當所と出帆して廿日ふ至り同洲コウアンタ漢小着す

け地も程蒲萄芽領ふりて人口二万をどの市街あり山
上いこる赤土草木稀ありといへども海岸ふい椰子の
大樹多し魚類菓実とて至つて下直あり土人の魚
と食し亦唐ものらの粉と最上の糧と為す當地の人
蠢愚るとい僅の給料のみふ十人或ひ二十人くらわづ鍬の
鎖りおて繋ぐと宰領一人附そひ荷物とて運送させ
らと居るあり其根もとんど牛馬の如し然れども鍬鎖
おて繋ぐと給金と取逃して往るところとてんせずとん
土人のこる額小入墨あり黒人多きと分明みらざれどもけ入墨
ハ出生の布の多るは我朝人歩みす小土人群り来りて

南洋新書 三編之三



刀の柄を握り衣類の袖をど
 と採り警衛の歩卒制す
 ども用ひず然る日本入
 人々を食と言ふの説あると
 聞試み小口を明き土人
 向ふ土人恐ま戦慄て逃
 散一夫より側へ寄るもの
 辺の者魚と天窓へ載て
 荷ひ頭上より血まりの
 顔へ流るるをみて拭ひ

背知ぬ侍あり往きまゐるもろく胸を
 然とと蒲萄芽
 人の居室ハ山の半腹ありて何きも美と尽せり大熱国
 あるが故に我朝人の草物小暑さるどるど當時への
 國の寒中のよりおて土人の焚火とわ寒気と凌ぐの体も
 寄あり當地も水をさふより飲料のこる三十里外
 より運送すると言ふ物の不自由る以て知るべし
 同晦日一ロウアンタ湊を開帆る七月十一日喜望峯の沖
 を通る高波の名所ありて船ハ大山を登り歯谷小下る
 如し今日船中おて大鳥ととる亜名ゴケと言ふ左右の
 翼を開け渡り三間余お及ぶ

八月十六日同洲「エンジンヤボンエ」の入江に着す土人の男女と
由小黒く齒と漆より

同十七日「拔答責亞湊」へ入船す地は和蘭の所領あり
人口十二万あり波戸場と上り五六町也大門と設く左右

小仁王尊の如き大いなる木像立ちり傍ら小数十人長き
鎗と持て警備する我國の足附の類多し十町ぐり小

して史那町へ出ると文王の社あり伯公の社あり市中の
家作は少く我國の類す地西瓜大いなり味ひ至て羨み

まゝ日本のお油あり三合入りわが徳利に詰日本醬油と認
め下小長崎改府とり札あり價四半弗あり又亞名「ワラル」と

つ小鳥小似く首のところ白き鳥至つて多し

同廿七日「処」で開帆し九月十日支那の廣東府の地先
の離と島香港に着船す鳥片の乱より英吉利の所領と

ありし地あり湊の町と「イクトリヤ」といふ之の英吉利女王の
名あり女王始めてその市街を築き故其名を負するとぞ

土地平坦のところ少く山の腹に道と附海岸へ支那人の
家多く山上へ尽く歐羅巴人の住居あり物價の高直なる



この世界第一あり言り同十八日碇と巻て香港と出帆し
同二十八日東京品川ふこそ着りりりれ
は本西洋新書と取すれどんの紙に紙上と漆ぬせむらうく


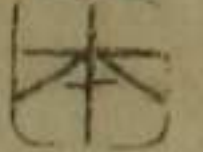
東洋亞国小間より未だ西洋の新見聞と記す小暇あら
 ず然る小漸その事終るとい第四編目の始め小筆と新紐
 約より佛蘭西の馬塞里港小渡りて彼の国の事ハ勿論英吉
 利諸部の説話と尽し題号の趣意と果さんと欲す然るとい
 初快の六卷ハ西洋羈旅の道草めて七卷よりこそ西洋新書の
 本文と看官僥倖小黒頭公の遅脚ると免り夕


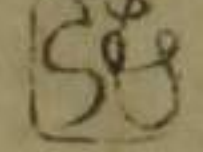
西洋新書三編下 終

西洋新書三編より後迄もて終既小成續々出版

官許 明治五壬申年中春刻成

瓜生政和編輯  

橋本玉翁正画  

梅村宜和藏梓  

東京
書林

大和屋喜兵衛

發兌



官 許

瓜生先生編輯

西洋新書

三部
全部

東京
書林

寶集堂發兌



